

春季彼岸法要のお知らせ



平成30年3月

◇両讚寺春彼岸法要

平成三十年

三月十八日(日曜日)

午後七時半開始

場所 両讚寺

○御回向承り日程

・三月十六日 午後二時より

・三月十七日 午後二時より

・三月十八日 終日

(十六日・十七日は午前中諸用の為

午後二時より承っております)

十八日は終日承っております)

◇恵心寺春彼岸法要

平成三十年

三月二十一日(春分の日)

午後七時半開始

場所 恵心寺



両讚寺
恵心寺

発行 〒610-0343
京都府京田辺市
大住八河原九
宿谷真治
電話 0774-62-3137

「彼岸」という言葉には反対語がございますが、皆様はごぞんじでしょうか？

彼岸の反対語は「此岸(しがん)」と言います。

では「此岸」とはどういった意味でしょうか？

「彼岸」が仏様の世界を指すのに対し、「此岸(しがん)」はこちら側の世界、つまりこの現世の世界のことを言います。

仏教では一貫してこの世界を苦しみの世界と説きます。

それを「娑婆(しゃば)」の世界と言います。

「娑婆」の語源は、サンスクリットという言葉で「忍耐」という意味です。すなわち、苦しみと汚辱に常に耐え忍ばなければならぬ世界ということ

です。

ではなぜ苦しみに耐え忍ばなければならないのでしょうか？

それは先月の寺報でもお伝え致しましたとおり、「世の中に永遠なものはない」からと説かれています。

彼岸会は「此岸(しがん)」

から「彼岸(ひがん)」に至る実践を行う期間と言われています。

つまり、目的を達成する為に正しい努力や行いをする期間が彼岸の過ごし方といえるのではないのでしょうか。

生きていて同じように耐え忍ばなければならないのなら、何もせずに娑婆世界の無常の苦しみに、ただただ耐え忍ぶだけの生き方を選ぶのか、それとも正しい忍耐

「外的な影響に耐えて、正しい心のコントロールを失わないこと」を実践するのか、共に考えることの出来る彼岸の期間になればと存じます。

三月 念仏会

・三月二十五日(日)
午後七時より

お鈴と木魚、お勤めの練習

二月の念仏会に引き続き、お鈴(りん)や木魚のタイミングなどをお伝えしながら、お勤めの練習をしたく存じます。

家のお仏壇でお経が唱えられるようになるのが目標です。

お唱えの練習で使用致しますので、お家に鈴と木魚がある方は、ご持参下さいませ。ようお願ひ申し上げます。

虚空蔵十三詣り

◇平成三十年

四月十三日(金)

虚空蔵谷 虚空蔵堂にて修行